

第3回「明日の京都の高速鉄道検討委員会」 開催概要

講演「磁気浮上式鉄道の技術」(須田義大委員)

- ・ 鉄道の高速化は「空気抵抗」「摩擦抵抗」の克服の歴史。
- ・ 日本では、「超電導」という、極めて高度な技術に挑戦してきている。
- ・ 様々な問題を克服し、ようやく日の目を見る段階にきた。

リニア中央新幹線について

- ・ 1973年の基本計画が、なぜ今でもそのままなのか。
- ・ 30数年後の世界がどうなのかを念頭に置く必要がある。
- ・ 観光の視点から見ると、京都を経由しないデメリットは大きい。
- ・ 「世界における京都の存在感」は国際的にも認知されたものであるから、京都市内から短時間で行ける場所に通することは、日本にとっても必要。
- ・ 京都市会9月定例会で「京都ルート実現に関する決議」をした。
- ・ 鉄道駅があることは、町の発展のための「十分条件ではないが、必要条件ではある」と言える。
- ・ 技術的な面と経済的な面との双方の視点から、リニア中央新幹線を京都に引っ張ってきて問題がないか、次回以降、掘り下げて検証したい。

関西国際空港へのアクセスについて

- ・ 世界的には「空港と駅は一緒にあるべき」というのが主流。飛行機と高速鉄道は補完関係。
- ・ 関西空港はいろいろ努力しているが、どうしてもアクセスに問題がある。
- ・ 関西として可能性をさぐっていくべき。名古屋 - 京都 - 新大阪 - 関西空港というリニアのルートなど、せめて調査くらいは...。
- ・ 関西空港が開港した当時の活気が欲しい。
- ・ 第二京阪道路が開通してからは、「はるか」よりもバスの方が速い、との話もある。
- ・ 次回以降は、「財源の確保」に関して国に対してもの申すことも考えていくべき。

その他

- ・ 日本では鉄道整備財源が乏しいため、抜本的改善がなされにくい。発想の転換・決断が必要。